

1 研究の概要

(1) 研究主題

音楽の構成原理の確かな知覚・感受をもとにした創作の授業づくり
 —音楽科の特質を踏まえた言語活動の充実を通して—

(2) 研究主題設定の趣旨

学習指導要領において求められている創作

音楽科においては、平成20年の中学校学習指導要領で、今までの表現、鑑賞の指導内容に加え、表現と鑑賞の各活動の中で行う〔共通事項〕が示されました。〔共通事項〕アには、「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること」⁽¹⁾と示されています。つまり、歌唱、器楽、創作、鑑賞のどの活動においても音や音楽を知覚し、その特質や雰囲気を感じ取り、思考・判断する力を育成することが求められています。

中学校学習指導要領、第1学年のA表現(3)創作の指導事項イでは、「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」⁽²⁾と示されています。創作活動において、生徒が自己の内面に生じたイメージをもちながら学習を展開することの重要性が示されています。表現したいイメージを、どのような音を用いて、反復、変化、対照などのどの構成原理を生かして表したらよいかを考えながら、音を音楽へと構成していくことができるようにするための指導が求められています。創作活動は、生徒が音のつながり方を試しながら短い旋律をつくったり、音素材を選び、まとまりを工夫して音楽をつくったりする活動です。このように、自分の思いや意図を具現化して「音楽をつくり出す」という意味では、音楽科における学習の根源的な活動ともいえるのが創作活動です。

中学校における生徒の実態と指導の現状

国立教育政策研究所が平成17年に中学校各学年生徒約2,000人を対象に実施した「音楽等質問紙調査」では、次のような結果が示されています。簡単な旋律をつくって表現することについて、「好きだった」「できた」と肯定的な回答をした生徒の割合は、3学年ともいずれも40%未満でした。また、教師質問紙調査において、「旋律をつくって表現すること」について、「指導していない」と回答した教師は、約90%でした。指導を行った教師においても、創作の授業は、生徒にとって「興味を持ちやすい」とは感じてはいますが、「生徒にとってできやすいか」という質問に対しては、大半が否定的な回答をしています。「時間がかかる」といった理由や、「作曲の専門的な知識がない」「旋律を記譜させることが難しい」といったような教師の誤った認識により、創作活動を十分に行っていない状況があると考えられます。本県においても、平成20年に改訂された学習指導要領を受けて、創作の指導事項アに示されている旋律創作の授業はいくらか見られるようになってきましたが、指導事項イに示されている創作の授業は極めて少なく、創作の授業については依然として課題がある状況です。

本研究の目的

上記の現状と課題から、本研究では、反復、変化、対照などの音楽の構成原理を用いて、構成原理によって生み出される雰囲気を感じ受しながら音楽をつくることのできるよう指導を工夫します。実際に音を聴きながら、例えば、「2回反復させるだけだと物足りないが、3回だと安定感がある」などと、音楽の構成原理と自分が感じ取ったこととを関わらせながら、知覚と感受の往還を繰り返し、生徒が試行錯誤しながら意図をもってつくることを大切にしたいと考えます。

また、音楽は音を媒体としたコミュニケーションとしての独自の特質をもっています。音楽科

の学習は、言語によるコミュニケーションだけでなく、音によるコミュニケーションも適切に関連付けながら、言葉と音や音楽による理解を図ることが大切です。このような音楽科の特質を踏まえた言語活動を通して、生徒が抱いたイメージと旋律の反復や変化のさせ方などの表現の工夫を関わらせながら、思いや意図を音や言葉で交流する活動を展開していきたいと考えます。

以上の2点を手立てとした「音楽の構成原理の知覚・感受をもとにした創作の授業」について提案したいと考えます。

(3) 研究の目標

音楽科の特質を踏まえた言語活動の充実を図ることを通して、生徒が音楽の構成原理を確実に知覚し、生み出される雰囲気や豊かに感受しながら取り組むことができるような創作授業の在り方を探る。

(4) 研究の方法と内容

ア 学習指導要領や様々な文献を基に、創作指導についての理論研究と、音楽科の特質を踏まえた言語活動についての先行研究を調査する。

イ 中学1年生生徒を対象に質問紙調査を実施し、構成原理についての理解の状況と音楽の授業における言語活動の実態や言語活動に対する意識について調査する。

ウ 音と言葉を関連付けながら伝え合う言語活動と、それを基にして実際に音を出しながら、試行錯誤する活動を位置付けた創作の授業展開を考案し、授業実践を通して、手立ての有効性を検証する。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成20年3月 p.75
- (2) 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成20年3月 p.74